

# 国語

## 注意

- 1 開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答は、全て解答用紙に記入しなさい。
- 3 漢字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
- 4 解答を選択肢から選ぶ問題は、記号で書きなさい。
- 5 問題用紙は、冊子の形になっています。
- 6 問題は、表紙の裏を1ページとし、7ページまであります。開始の合図で問題用紙の各ページを確認し、始めなさい。
- 7 問題用紙の表紙と解答用紙の受検番号欄に、それぞれ受検番号を記入しなさい。

受検番号

【本の一部】 次の【本の一部】と【資料1】、【資料2】を読んで、後の1から5までの各問いに答えなさい。

## 著作権保護のため削除

(注) ヘンリー・ペトロスキはアメリカ合衆国の工学者。グラフィックデザインに印刷を媒体とした、視覚情報伝達のためのデザイン。  
体現は抽象的な事柄を具体的な形に表わすこと。  
(佐藤卓『塑する思考』による。)  
新潮社刊

【資料1】

## 著作権保護のため削除

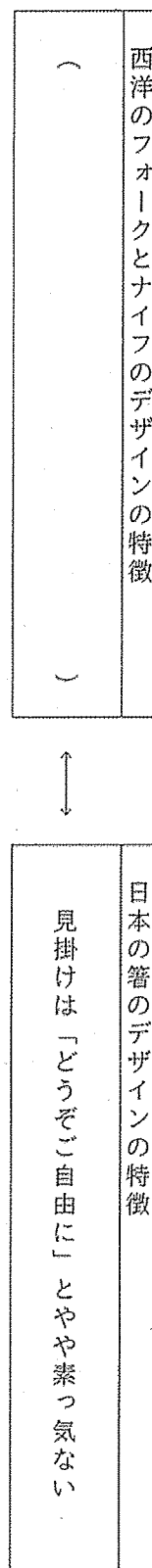
(高橋隆太『おはしのおはなし 自分の箸と出会うため』による。)

【資料2】

## 著作権保護のため削除

(松浦弥太郎『なくなったら困る100のしあわせ』による。)

1 「西洋のフォークとナイフ」と「日本の箸」のデザインの特徴について、次のように、本文中の対照的な表現をまとめました。空欄にあてはまる適切な言葉を、「本の一部」から二十五字で抜き出して書きなさい。



2 「本の一部」の——線部①について、筆者がこのように述べているのはなぜですか。理由を書きなさい。

3 「本の一部」と「資料1」を読み比べ、「資料1」からのみわかることはどれですか。最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本では箸の材質選びに木の文化の伝統が活かされてきた。
- イ 日本の箸は日本人の振る舞いに準じて育まれてきたものだ。
- ウ 日本は箸と匙を併用せず、純粋な箸食文化といわれている。
- エ 中国・韓国の箸はほぼ棒状であるが、日本の箸は先が細い。

4 「本の一部」の——線部②を説明したものととして最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ふろしきは原型を保ったままのものであるが、想像力を働かせれば究極の美を心の中に描き出すことができるということ。
- イ あらゆる包む対象に対応できるため、ふろしきはこの時代にまで残っており、今後も永遠に存在し続けているということ。
- ウ ふろしきが正方形という野暮な形であるので、粋な持ち物になるよう包み方のパターンが無数に考え出されたということ。
- エ 単純な形態で留められたふろしきだからこそ、表面に様々な文様や色彩など際限なく美しく豊かに創作できるとのこと。

5 「本の一部」に——線部③とありますが、どのようなことですか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

- 条件1 「ほどほど」とはどのような状態であるのか、「本の一部」の言葉を用いて書くこと。
- 条件2 「本の一部」と「資料2」をふまえて書くこと。

二

短歌を作る学習に取り組んでいるゆうきさんたちは、次の「本の一部」を読んで、「短歌を作るポイント」について理解を深めています。「本の一部」、「話し合いの様子」、「話し合いのまとめ」、「ゆうきさんの振り返り」を読んで、後の1から4までの各問いに答えなさい。

【本の一部】

## 著作権保護のため削除

# 著作権保護のため削除

( 栗木 京子 『短歌をつくろう』による。 )

## 【話し合いの様子】

ゆうきさん：「本の一部」の後半「さてきて、」以降の内容から短歌を作るポイントを話し合いました。

かおるさん：筆者は、**A**の短歌の結句「七色の虹」がじっくりと来ずに、**B**のように「虹の青色」と作り直しているね。最初は、よく観察しな  
いまま「虹なら七色」と決めつけたけれど、もう一度虹を思い描いて、一番印象に残った青色を使って表現したんだよね。

つばささん：そうだね。「本の一部」の内容から、「七色の虹」という表現より「虹の青色」の方がよい理由は、「**I**」から」とまとめることができるね。

かおるさん：**C**の短歌は、作者の秋葉さんがじっくりと観察した結果、その時その場所では受けとめることのできない「黄と藍」を選ぶことができたよ、筆者は述べているよ。

ゆうきさん：短歌を作るときには、適切に言葉を選ぶことも重要なんだね。筆者は、**C**の短歌から「毅然とした美しさ」を感じているけれど、それも秋葉さんが選んだ言葉から伝わってきたんだね。その理由

## 【話し合いのまとめ】

○短歌を作るポイント

- ①じっくりと観察して表現する。
- ②適切に言葉を選ぶ。

筆者は、虹をよく観察しないまま「七色の虹」としたが、もう一度思い描くことで青色がきれいだったことを思い出し、「虹の青色」と表現した。

**C**の短歌に使われている言葉の意味や特徴に注目すると、

**I**

という情景が思い描かれることから、筆者は「毅然とした美しさ」を感じている。

を、言葉について調べてまとめてみよう。

かおるさん…まず「毅然」の意味を確認しよう。「意志が強く、物事に動ぜずし

つばきさん…「時雨」は、国語辞典を調べると「冬の初め頃の、降ったりやんだ

りする雨」と書いてあるよ。

ゆうきさん…「映える」は、①光を受けて輝く ②目立って、鮮やかに見える「

つばきさん…「虹」を調べたら、夏の季語になっているよ。だから、わざわざ「冬

かおるさん…虹は「かかると」という表現だけでなく、「立つ」という言葉を使う

ゆうきさん…これらの言葉の意味や特徴をもとに、筆者が「毅然とした美しさ」

と感じた理由をまとめてみよう。

と感動した理由をまとめてみよう。

と感動した理由をまとめてみよう。

【ゆうきさんの振り返り】

短歌を作る学習を通じて、三十一音という限られた中で表

現するために、適切に言葉を選ぶことが大切だと感じた。

これからの学習や生活の中で、語いを豊かにすることに取

り組んでいきたい。

1 「本の一部」の——線部について、短歌において文語を用いる効果は、どのように述べられていますか。最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 口語で作ることが当たり前だと考えられている短歌に、仰々しい感じをもたせることができる。

イ 短歌に落ち着いた雰囲気をもたせたり、伝えたいことを鮮やかに表現したりすることができる。

ウ 『万葉集』の時代から明治時代にいたるまで使われていた言葉に、新しい風を吹かせることができる。

エ すぐれた文語の助動詞の意味を知ることができ、今と昔の言葉の違いを理解することができる。

2 「話し合いの様子」の空欄 I にあてはまる適切な内容を、「本の一部」の言葉を用いて、四十字以内で書きなさい。

3 「話し合いのまとめ」の空欄 II にあてはまる適切な内容を、「本の一部」と「話し合いの様子」をふまえて、四十字以上、五十字以内で書きなさい。

4 「ゆうきさんの振り返り」の——線部について、語いを豊かにするために、あなたはどのような方法が有効だと考えますか。次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 語いを豊かにするとはどういうことかがわかるように書くこと。

条件2 あなたが有効だと考える方法と、そのように考える理由を具体的に書くこと。

条件3 原稿用紙の正しい使い方にしたがって、百字以上、百四十字以内で書くこと。

三

次の1から4までの各問いに答えなさい。

- 1 次の①から⑤までの文中の —— 線部のカタカナを漢字に直して書きなさい。
  - ① 店舗をカク<sup>チ</sup>ヨウ<sup>ウ</sup>する。
  - ② 彼女の努力には舌を<sup>マ</sup>ク。
  - ③ 友人を家にシ<sup>ョ</sup>ウ<sup>ウ</sup>タイする。
  - ④ 食後にお皿を<sup>ア</sup>ラウ。
  - ⑤ 偉大なコウ<sup>ウ</sup>セキを残す。
- 2 次の①から⑤までの文中の —— 線部の漢字の正しい読みをひらがなで書きなさい。
  - ① 旅行の計画を<sup>纏</sup>る。
  - ② 校内に<sup>憩</sup>いの場を作る。
  - ③ <sup>閑</sup>静な住宅街に住む。
  - ④ 抑<sup>揚</sup>をつけて話す。
  - ⑤ <sup>纏</sup>やかな毎日を過ごす。
- 3 次の文章を読んで、後の①と②の各問いに答えなさい。

# 著作権保護のため削除

(中村 桂子 『科学は未来をひらく(中学生からの大学講義)3』による。)

- ① 空欄 I にあてはまる言葉として、最も適切なものを、次のアからエまでのの中から一つ選び、記号で答えなさい。
 

ア つまり                      イ だから                      ウ さらに                      エ しかし
- ② 線部 「たくさん」の品詞名を漢字で書きなさい。

4 次は、『竹取物語』の「文章の一部」とその「現代語訳」です。これらを読んで、後の①と②の各問いに答えなさい。  
【文章の一部】

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてみたり。

【現代語訳】

今ではもう昔のことだが、竹取の翁とよばれる人がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろな物を作るのに使っていた。名前を、さぬきのみやつことといった。(ある日のこと)その竹の中に、根もとの光る竹が一本あった。不思議に思って、近寄って見ると、筒の中が光っている。それを見ると、三寸ほどの大きさの人が、たいへんかわいらしい様子で座っている。

- ① 【文章の一部】の中の —— 線部は、だれの動作ですか。「文章の一部」の中から八字で抜き出して書きなさい。
- ② 【文章の一部】の中の ~~~~~ 線部を現代仮名遣いに直して、全て書きなさい。



国語

解答用紙

※印の欄には何も記入しないこと。

※ [ ]

※ [ ]

※ [ ]

5					4	3	2	1

4						3	2	1

140字 100字

受検番号 [ ]

4	3	2	1
②	①	①	
		る	①
		②	②
		い	<
			③
			④
			う
			⑤
		やかな	⑤

※ [ ]